



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として実施いたしました。内容は、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」です。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

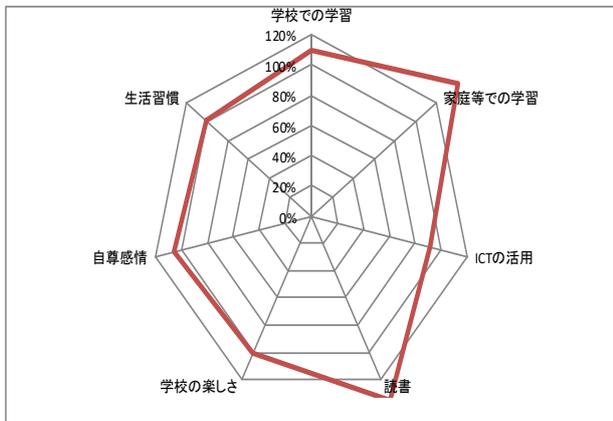
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	どの領域でもよくできています。特に「書くこと」の領域で大きく上回っています。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題で全国平均を大きく上回っています。一方、表現の効果を考えるという趣旨の問題で、課題が見られました。	上回っています。
算数	「データの活用」の領域がよくできています。目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察ができています。一方、「変化と関係」の領域に課題が見られました。	上回っています。
理科	どの領域でもよくできています。特に「地球」の領域がよくできています。天気と気温の変化、水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活と関連付けて理解できています。実験結果を基に話し合い、次の学習につなげるという趣旨の問題に課題が見られました。	上回っています。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・学習習慣や読書習慣等は高い水準にあります。
- ・特に家庭等での学習では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という項目や「1日当たりどのくらい時間勉強しますか」という項目で全国平均を大きく上回っています。また、読書習慣が定着しており、日常的に本に親しむ児童が多いようです。
- ・自尊感情の項目でも高い水準にあり、「自分にはよいところがある思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という項目で全国平均を大きく上回っています。
- ・ICTの活用で課題が見られました。本校でもICT機器を積極的に活用していますが、ICTのよさを生かした学びについて児童に意識させる必要があります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科では、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現にも着目して読むことができるように指導していきます。
- ・算数科では、日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導していきます。
- ・理科では、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見いだす場面の指導を大切にしていきます。
- ・朝学習、補充学習時間(学1タイム)等でも基礎基本の学習や習熟度別の課題に取り組んでいきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間が増えています。小学校の児童と中学校の生徒が一緒になって携帯電話やスマートフォン等の使い方について話し合いました。学校でも適正な扱いができるように指導していきます。
- ・学校では、家庭学習チャレンジ週間を設定したり、モデルとなるノートを掲示したりすることで、家庭学習の習慣が定着しつつあります。引き続き、ご家庭での声かけをお願いします。